

【 総務 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①学校全体の共通の理解や応援を深める。	①「鎮西通信」や「育誠会だより」を発行して共通の認識を深める。各種の表彰式を設けて、努力する素晴らしさを認識して応援する。	① A	①「鎮西通信」や「育誠会だより」、「学校要覧」を発行できた。「四恩」も発行する予定である。表彰式や卒業証書授与式を行うことができて良かった。
②「年度初めの諸費」の徴収期限について、方法を改善する。	②「コンビニ振込」は便利であるが納入期限が守られていない。総務部で検討していきたい。	② A	②「コンビニ振込」はやっと軌道に乗り始めたので継続したい。
③各学年が楽しい時を揃って楽しめる行事を計画する。	③各行事はことごとく中止になったが作品発表会を実施することができ、生徒は満足していたと感じた。次年度は遠足を計画しており楽しい思い出を作りたい。	③ C	③今年度は、芸術鑑賞が実現できず残念だった。次年度は学園体育館で計画していた雑技団の公演が行られるように頑張りたい。鎮西高校に入学して良かったと思える行事を開催したいと考えている。

【 教務 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①生徒の学力保証のための授業時間数の確保	①学校行事の事前把握を確実にを行う。 出張や年休等による振替授業を徹底する。	① B	①現在の業務を次年度も実施することで、円滑な授業実施が見込める。
②教育課程や教務規定、その他の教務部に关わる情報等の全職員への周知徹底	②情報共有のための教育過程委員会、教科主任会等を開催する。	② B	②情報提供の準備もできなかったため、なかなか教育課程委員会、教科主任会等を開くことができなかった。次年度は情報提供も含め、教育課程委員会、教科主任会の場を増やし、検討する機会を増やしていきたい。
③他部署との連携、情報共有	③日ごと、週ごと、月ごとの業務を明確にし、ルーティーン化することで、効率化を図りつつ正確性も追及する。	③ B	③事務局や総務部との連携はしっかりと実現できた。突発的な変更事項が多く連絡が徹底できなかったケースもあったため、担当者レベルでの打合せ等実施していく。

【 生徒指導 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①携帯電話やスマートフォンを授業に関係しない時に校内で使用させない指導の徹底	①現在、携帯チェックシート導入後校内で使用するケースは減少傾向にあるが、常日頃より担任、学年と連携し、トラブルになる具体的な事案を伝え校内で使用しないように呼びかけをする。	① B	①昨年度授業中の携帯電話やスマートフォンの使用での違反は75人であったが、今年度は57人と減少はした。しかし、授業中の使用は減少したものの校内での使用はまだ見受けられる。担任・学年としっかり連携し、さらなる呼びかけをし、使用しているその場で各職員が指導する姿勢で次年度は取り組みたい。
②常日頃より品性ある身だしなみやマナーを心得た生徒を育成する	②教育活動（授業・HR・部活動等）において、指導開始時に服装指導を徹底するとともに心のこもった挨拶、礼のできる生徒を育てる。また、校内でのピアス着用が見受けられる為、本年度よりピアス着用のチェックシートを導入する。	② C	②服装、頭髪検査においては、違反者が減少しているが、何度も違反を繰り返す生徒が見受けられる。日常的にも男女共に違反者が散見される為、服装、頭髪指導は全職員で実施するという体制を確立し、毎朝のHRでの指導を徹底するべきである。検査の時だけでなく、常日頃から品性ある身だしなみを身に付けさせたい。ピアスに関しては、校内で着用している生徒はほとんど見受けられなくなった為、本年度より導入したピアス着用のチェックシートの効果が見受けられた。
③いじめ防止	③いじめアンケートを学期に一度実施した。いじめ問題は、早期発見や早期解決、未然防止に向けてチームで対応することが大事になる。教職員は細かい生徒の変化を感じ、日常的に担任、学年、関係職員間で情報の共有化を図る。	③ B	③いじめ問題は生徒の変化を感じ、早期対応することが重要になる。全教職員がいじめは絶対に許されないという姿勢を常日頃より、生徒に伝えていく必要があると感じた。互いの良さを認め、協力し合える生徒を育むための教育活動の充実を図ることが重要になる。また、生徒が精神的に不安定になっている場合、カウンセリングや専門機関によるケアを受けるよう勧めた。

【 進路指導 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
<p>①職業観の育成・進路目標設定 (生徒の社会的自立に向けて、高校生として必要な基盤となる能力や態度を育てる)</p>	<p>①特に各学年部、教務部と連携し、学年全体で進路意識の高揚をはかり、進路目標を設定させる。また、各担任を通じて、生徒一人ひとりの希望を把握する。 熊本県雇用整備協会・ヤングハローワーク・公務員ゼミナールなど外部機関との連携を図り、講話や直接的な指導を実施する</p>	<p>① B</p>	<p>①本年度の3学年担任団は、全員昨年持ち上がった。そのため、職業観の育成や進路目標設定に関する指導が継続的な指導となり、例年に比ベスムーズで一応の成果を見ることができた。半面、1、2年生については、コロナの影響もあり、具体的な目標設定をさせるには至っていない。次年度は、これまでのコロナ対応を踏まえたうえで、より細やかな共通理解を図り、学年との連携を強化し、指導に当たりたい。</p>
<p>②受験対応学力向上を目標とし、必要に応じて情報を提供し、指導・支援に全職員で臨む。</p>	<p>②生徒に対して、学校案内・会社案内・求人票など、必要に応じた情報を提供する。また、進路部所属職員による進学・就職相談も実施する。</p>	<p>② A</p>	<p>②3学年の進路に対する意識が高かったため、各自、必要に応じて、進路指導室を利用し情報収集をしていた。また、進路目標が定まった生徒及び保護者に対して、しっかりと情報提供ができた。進路実現に向け、進路指導室で自主的に学習に取り組むなど、意識の高い生徒が増えている。</p>
<p>③受験生の進路実現に向け全職員で指導支援にあたる。</p>	<p>③受験生に対しては、以下の手だてを講じる。 校内模試・対外模試・添削指導（強化学習、小論文、願書等に係る提出書類）日常的な礼法マナー教育・面接指導等</p>	<p>③ B</p>	<p>③ 3学年に対する個々に応じた指導は、生徒の目標設定が早かったため、順調に取り組むことができた。希望者に対しては、ほぼ100%の進路実績を残すことが出来た。今後の課題としては、やはり基礎学力の向上が必要である。</p>

【 保健体育 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①コロナウィルス防止対策についての危機管理強化をする。	①学校内に消毒液を置き、教室の換気、食事時のマナー等に注意しながら生徒、教職員一同で感染予防対策に協力した。	① B	①各教室に消毒液を置き、感染防止の3つの基本 1 身体的距離の確保 2 マスクの着用 3 手洗い徹底 を実行したいと思う。 毎日の健康チェックを行い、発熱または風邪の症状がある場合には無理せず病院に行き自宅で療養するように指導した。 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にするよう指導した。
②授業中、クラブ中の事故怪我防止についての注意を促す。	②事故があった場合は担任と養護教諭が連携して事故報告をし即座に対応するように通達した。	② B	②学校安全の場合、地域社会との連携と命の大切さを保険の学習と関連させ危険を予知し回避する態度を考えさせその対応に注意するように指導した。 AED設置場所の確認と危険箇所の点検を行い、危険場所を改善した。
③充実した体育の授業	③各学年別スポーツ大会を行い体育の授業で運動不足解消し、体力向上を心がけ、学年の努力目標である心身練磨の達成に少しではあるが近づいた。	③ B	③コロナ禍で学校行事が少なくなる中、生徒たちの鬱屈した気持ちが少しでも和らぐように工夫しスポーツ大会を行った。

【 生徒募集 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①「早期に募集の方向性を固める」	①前年度末に今年度の年間計画を早期に立てた。	① A	①新年度始業時より計画通りに活動ができた。
②「各種説明会・体験会等の開催の周知徹底」	②学校案内やホームページへの掲載、テレビCM、進学情報誌、SNS等を活用する。	② B	②学年案内や各種メディアを利用し告知はできたがSNSによる広報ができていなかった。
③「オープンスクールの内容の充実を図り、集客を高める」	③生徒が中心となりオープンスクールを創り上げる。各選択科目の授業内容を発表する。本校生徒の頑張りを直接中学生に見てもらう。新型コロナ対策として当日ライブ配信を行い、来場できない場合でも対応できるようにしておく。	③ B	③前回（2年前）と参加者数は変わらなかった。熊本県立劇場演劇ホールで開催し、学校概要説明、グラフィックデザイン系科目の授業作品展示や舞台類型、ダンス部による演技を披露した。生徒が受付や展示準備、発表まで行い、良い学習発表の機会にもなった。学校紹介DVD作品の特典を利用し企画・提案したオープンスクールのダイジェスト版がテレビ番組で放映されたことは効果的なアプローチだった。オープンスクール、学校説明会の参加者は授業体験会にも参加し、本校を受験する傾向が高い。
④Web出願・Web合格発表の導入（初年度）	④信頼できる業者と契約する。 Web出願の利便性や汎用性を利用する。	④ B	④受験生必須項目の入力作業は軽減されたが、システム構成をする担当者への負担は大きかった。Webによる合格発表だったため、県立前期入試の日程変更の場合でも影響なく対応できた。重要項目の確認作業は複数人で取り組んだ方がよかった。中学校の意見によると保護者・生徒はまだWeb出願に対応できる環境ではなく入力内容の確認に大変苦労されたとのことだった。高校の担当者は電話対応や入力ミスによる修正作業に追われた。利便性や汎用性を習得し、次年度はWeb出願の利点を活かしていきたい。
⑤志願者数・入学者数の増加 (選択科目制5年目)	⑤個性を伸ばす教育内容の充実、地域社会への貢献、学校行事の充実、生徒や保護者、地域から信頼される学校になるように学校全体で努力する。教育活動をみえる化すること。	⑤ B	⑤受験者数に対して入学者数の率は高まった。選択科目制が県内の中学生には浸透し、科目ごとの安定した人数が確保できた。次年度は大幅な変更はせず、授業内容の充実を図るなど検討したい。

【 高校1学年 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①規制正しい生活習慣	①遅刻や欠席が無いように家庭との連絡をこまめに行い、生徒の自覚を促す。 必要に応じて家庭訪問を実施し、保護者と情報を共有する。	① B	①保護者と連絡を取り合い、生徒の状況観察はコロナ禍の中、概ね出来ていた。家庭訪問や三者面談を実施することが出来た。
②基礎学力の向上	②授業の取り組み方について、学年集会やホームルームを通して重要性を説明する。部活動生には、顧問と学年が連携して学習時間を与え、学力向上に努めさせる。	② B	②授業態度は年度当初から7クラスとも、概ね良好である。テスト前の放課後学習会（2回実施）は部活動生も参加し効果があった。特に「数学」が好評であった。
③校内の環境美化	③清掃活動では、生徒と共に清掃活動に取り組み、環境美化の大切さを考えさせる。	③ B	③各クラスでの清掃活動時、担任が付き生徒と共に清掃活動を実施した。

【 高校2学年 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①学力の向上	<p>①早期に進路意識を高め、個々の目標を掲げて学習意欲の向上を図る。</p> <p>授業を大切にしながら確実に力をつけていくために教科担当者と担任の連携をはかり、定期試験毎に対策を立てて指導する。</p>	① B	<p>①1学期当初に学習に対する個人の目標を掲げ意識を高めた。また、定期考査後に学習会を開き、担任と教科担当者が連携して、個々の学力を掌握しながら対策を講じ、学習意欲を高めて学力の向上に繋げた。</p> <p>グラフィック選択に於いては、専門学校での実習を通して専門的知識を深め、進路について意識を高めることができた。</p>
②基本的生活習慣の確立	<p>②遅刻・欠席・早退に対し担任と保護者と連絡を取り合い、必要に応じて家庭訪問を行う。</p> <p>頭髪・服装に関して自己規制を意識づける指導を工夫し、実施する。</p>	② B	<p>②各担任は遅刻・欠席・早退に課題のある生徒に対し、家庭と密に連絡を取り合って二者面談、三者面談、家庭訪問を実施し、改善の厳しい家庭については学年で対応して指導を継続している。</p> <p>頭髪・服装については、進路意識を高めながら、その必要性を意識づけ、自己規制できるよう家庭の協力を得ながら、担任指導、学年指導を継続している。</p>
③内面の充実	<p>③体育選択、ダンス、舞台、グラフィック選択に於いては授業や部活動を通して個人の能力を活かし、実力を身につけるとともに、他者と協働して競技に臨んだり、作品を創り上げる中で自己と向き合い、内面的成長を図る。</p> <p>進学、公務員コースに於いては、進路目標を高く掲げて準備を重ねる日々の中で、自己と向き合いながら進路実現に繋げる。</p> <p>総合的探求の時間を通して課題学習に取り組み、他者と協働して研究・発表を行う中で自己と向き合い、協調性や積極性、コミュニケーション能力を養う。</p>	③ B	<p>③各選択教科での授業や部活動を通して、1年次よりも高い学力や技術を身につけながら自己の内面とも深く向き合い成長することができた。</p> <p>総合的探求の時間やHRでの活動を通して他と協働し、コミュニケーション能力や協調性、積極性を養う中で個々の内面的充実がみられた。</p>



【 高校3年生 】部

改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
①基本的生活習慣の確立	①挨拶の徹底、頭髪、服装を学年集会時やLHR時に確認する。遅刻・早退・欠席をさせない。掃除を徹底させる。	① B	①頭髪・服装検査の回数は十分あった。検査も厳しく指導した。一部の生徒にツーブロック・眉剃りがあったが、その他の生徒は問題なかった。最終的に基本的生活習慣の身についていた学年であったと思われる。
②保護者との連携	②遅刻・欠席の連絡は保護者からしてもらい、連絡がない場合は必ず保護者に連絡をする。進路決定のためにも、三者面談だけでなく、状況に応じて保護者と連絡を取り合う。	② A	②保護者との連絡・連携はよく取れており、面談内容等からしっかりと信頼関係が築かれていたと思われる。 連絡がない無断遅刻数が年度初めは多かったが、減少した。
③全生徒の進路決定	③授業を大切にし、授業の中で学力をつける。家庭学習を習慣化する。LHRと総合的な探求の時間を進路指導に最大限活用する。二者面談、三者面談を実施し、進路についての共通理解を深める。進路に関わる書類上のミスがないようにする。	③ A	③この学年は、全体的に進路に対する意識が高く、進路選択に向けてLHRと総合的な探求の時間を有効に活用できた。 二者面談、三者面談から希望進路決定まで問題なく進めることができた。また、提出書類等についての問題もなかった。最終的に、全ての生徒が希望の範囲内で進路が決定した。 進路に関わる大事な時期に問題行動が発生し、生徒指導部、進路先、進路指導部に大変迷惑をかけた。